

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

メンタルヘルスマネジメント

開講時期	IV	単位数	1	時間数	15時間
教員名	非常勤講師	実務経験			
科目目標	勤労者の健康の保持増進や疾病予防のための基礎的なメンタルヘルスマネジメントの実践能力を身につける				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）		テキスト	講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	1. メンタルヘルスの傾向①	講義
2	2	メンタルヘルスの傾向②	講義
3	2	2. 職場におけるメンタルヘルス①	講義
4	2	職場におけるメンタルヘルス②	講義
5	2	3. メンタルヘルスマネジメント演習 1) カウンセリング技法 2) セルフケアスキル	講義・演習
6	2	3) ストレスとコーピング	講義・演習
7	2	ソーシャルサポート	講義・演習
8	1	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

リハビリテーション論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	大阪労災病院臨床講師	実務経験	大阪労災病院勤務 リハビリ技師		
科目目標	1. リハビリテーションの概念を理解し、生活者および勤労者の社会復帰支援とQOLを高める訓練の実際を学ぶ 2. 演習を通して、具体的な対象者の生活支援の方法を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	リハビリテーション看護（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	リハビリテーションの定義と概念（疾病・障害・生活機能分類）	講義
2	2	呼吸および心疾患のリハビリテーション	講義
3	2	下肢切断のリハビリテーション	講義・演習
4	2	上肢切断のリハビリテーション	講義
5	2	脳血管障害のリハビリテーション	講義
6	2	コミュニケーション障害のリハビリテーション	講義
7	2	脊髄損傷のリハビリテーション（四肢麻痺を中心に）	講義
8	2	運動器疾患のリハビリテーション	講義
9	2	がんのリハビリテーション	講義
10	2	認知症患者のリハビリテーション	講義
11	2	転倒予防（環境整備・住宅改修を含む）	講義
12	2	動作の獲得（自助具や装具の利用）	講義
13	2	摂食嚥下障害のリハビリテーション	講義・演習
14	2	介助方法と腰痛予防	講義・演習
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

医療行政・関係法規

開講時期	II	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験			
科目目標	1.看護職者が法律を学ぶ意義について学ぶ 2.生活者および勤労者が生涯を通して、健康や障害の状態に対応して活用できる社会資源について学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	ほぼ毎回単元別演習問題を実施します	テキスト	看護を学ぶための法規と社会保障制度（ふくろう出版）2019/3/25		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	学習内容の概要、看護の国際性について	講義
2	2	看護を取り巻く社会の現況と看護の対象及び看護者の人生	講義
3	2	国家試験必出項目（重要な法改正）	講義
4	2	生命の始期・終期を考える（法と倫理の礎）	講義
5	2	看護行為の法的性格についての考察	講義
6	2	看護職・看護学生にとっての基本法	講義
7	2	現行法規総覧 衛生法規一覧	講義
8	2	保健衛生法規	講義
9	2	予防衛生法規	講義
10	2	医事関係法規	講義
11	2	薬事関係法規	講義
12	2	環境衛生法規（保健所の業務内容）	講義
13	2	公害関係法規（環境省の業務内容）	講義
14	2	労働関係法規 学校関係法規 終講試験対策	講義
15	2	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

栄養学

開講時期	I	単位数	1	時間数	15時間
教員名	非常勤講師	実務経験			
科目目標	1.人間の生活と栄養について理解する 2.健康の状態に応じた食事療法について理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）		テキスト	栄養学（医学書院） 糖尿病食品交換表（日本糖尿病協会 分光堂） 腎臓を守る食事療法（杏林書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	1.人間栄養学と看護	講義
2	2	2.栄養状態の評価・判定	講義
3	2	3.栄養素の種類とはたらき	講義
4	2	4.エネルギー代謝	講義
5	2	5.栄養素の消化・吸収	講義
6	2	6.栄養素の体内代謝	講義
7	2	7.栄養管理	講義
8	1	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

勤労者医療概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	15時間
教員名	大阪労災病院治療就労両立支援センター院内講師	実務経験	有 保健師		
科目目標	勤労者医療を推進する労災病院の役割機能を理解し、役割を遂行するために必要な勤労者医療の概要を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	勤労者医療概論		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	独立行政法人労働者健康安全機構の役割	講義
2	2	労災病院の役割	講義
3	2	労働衛生（産業保健）の理解	講義
4	2	労働衛生行政	講義
5	2	勤労者を取り巻く課題と対策	講義
6	2	勤労者を取り巻く課題と対策	講義
7	2	労災病院における勤労者医療と看護	講義
8	1	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

疾病治療論 I

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	大阪労災病院院内講師 大阪労災病院院内講師 大阪労災病院院内講師	実務経験	有 医師（循環器内科） 有 医師（心臓血管外科） 有 医師（糖尿病内科）		
科目目標	1. 代表的な疾患の成り立ちと回復の促進の過程について理解し看護実践の根拠となる基礎的知識を学ぶ 2. 労災疾患等医学研究（3領域10テーマ）の基礎的知識を学ぶ 3. 代表的な疾患の病因・症状・診断・検査・治療の概要を理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	正常な人体の構造と機能、基本的な病態生理を復習して臨むこと テキストの序章・第1章を事前に読んでおくこと 授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	成人看護学 循環器（医学書院） 成人看護学 呼吸器（医学書院） 成人看護学 内分泌・代謝（医学書院） 成人看護学 血液・造血機能（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	4	『循環器疾患』	講義
2		虚血性心疾患 業務過負荷による脳・心疾患 血圧異常 不整脈	
3	4	『循環器疾患』	講義
4		心不全 弁膜症 心膜炎 心筋疾患 動脈の閉塞性疾患	
5	4	『循環器疾患』	講義
6		心臓疾患の外科的治療	
7 8	8	『呼吸器疾患』	講義
9 10		呼吸器感染症 肺炎 結核 慢性閉塞性肺疾患 塵肺 石綿 肺癌 肺血栓塞栓症 呼吸不全	
11	4	『内分泌疾患』	講義
12		視床下部 - 下垂体前葉系疾患 視床下部 - 下垂体後葉系疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 性腺疾患 膵・消化管神経内分泌腫瘍	
13	2	『代謝疾患』	講義
		糖尿病 脂質異常症 肥満症とメタボリックシンドローム 尿酸代謝異常	
14	2	『血液・造血管器疾患』	講義
		赤血球系の異常 白血球系の異常 造血管器腫瘍 出血性疾患	
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

疾病治療論Ⅱ

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	大阪労災病院院内講師 大阪労災病院院内講師	実務経験	有 医師（消化器内科・消化器外科） 有 医師（内分泌科・泌尿器外科）		
科目目標	1. 代表的な疾患の成り立ちと回復の促進の過程について理解し看護実践の根拠となる基礎的知識を学ぶ 2. 労災疾患等医学研究（3領域10テーマ）の基礎的知識を学ぶ 3. 代表的な疾患の病因・症状・診断・検査・治療の概要を理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	正常な人体の構造と機能、基本的な病態生理を復習して臨むこと テキストの序章・第1章を事前に読んでおくこと 授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	成人看護学 消化器（医学書院） 臨床外科看護学総論（医学書院） 臨床放射線医学（医学書院） 成人看護学 腎・泌尿器（医学書院） 成人看護学 女性生殖器（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	『消化器疾患』 上部消化管の代表的疾患の外科的治療	講義
2	2	『消化器疾患』 下部消化管の代表的疾患の外科的治療	講義
3	4	『消化器疾患』 胆・膵・肝臓疾患の外科的治療	講義
4			
5	2	『消化器疾患』 消化器疾患の内視鏡的治療	講義
6	2	『消化器疾患』 胆・膵臓疾患の内科的治療	講義
7	4	『消化器疾患』 肝臓疾患の内科的治療	講義
8			
9	4	『腎・泌尿器疾患』 腎不全 透析 腎炎 ネフローゼ症候群	講義
10			
11	4	『腎・泌尿器疾患（男性生殖器疾患）』 尿路通過障害と機能障害 尿路結石症 尿路・性器の腫瘍	講義
12			
13	4	『女性生殖器疾患』 外陰の疾患 膣の疾患 子宮の疾患 卵管の疾患 卵巣の疾患 乳房の疾患	講義
14			
15	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

疾病治療論Ⅲ

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	大阪労災病院院内講師 大阪労災病院院内講師 大阪労災病院院内講師	実務経験	有 医師（脳神経内科・外科） 有 医師（整形外科） 有 医師（口腔外科・耳鼻咽喉科）		
科目目標	1. 代表的な疾患の成り立ちと回復の促進の過程について理解し看護実践の根拠となる基礎的知識を学ぶ 2. 労災疾患等医学研究（3領域10テーマ）の基礎的知識を学ぶ 3. 代表的な疾患の病因・症状・診断・検査・治療の概要を理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	正常な人体の構造と機能、基本的な病態生理を復習して臨むこと テキストの序章・第1章を事前に読んでおくこと 授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	成人看護学	脳・神経（医学書院）	
			成人看護学	運動器（医学書院）	
			成人看護学	皮膚（医学書院）	
			成人看護学	耳鼻咽喉（医学書院）	
			成人看護学	眼（医学書院）	
			成人看護学	歯・口腔（医学書院）	
			成人看護学	アレルギー・膠原病・感染症	

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	『脳・神経疾患』 脳血管疾患の内科的治療	講義
2	2	『脳・神経疾患』 筋疾患・神経筋接合部疾患 脱髄・変性疾患 認知症	講義
3	2	『脳・神経疾患』 脳血管疾患の外科的治療	講義
4	8	『運動器疾患』	講義
5		骨・関節の炎症性疾患 膝・股関節OA 四肢切断 骨折等の職業性外傷	
6		脊椎の疾患 脊椎疾患および職業性外傷としての脊髄損傷	
7		職業性腰痛症や頸肩腕症候群	
8	2	『皮膚疾患』 表在性政皮膚疾患 アトピー性皮膚炎 物理化学的皮膚障害 熱傷	講義
9	2	『耳鼻咽喉疾患』 耳疾患 中耳炎 突発性難聴 騒音・電磁波等による感覚器障害 高・低温、気圧、放射線等の物理的因子による疾患 振動障害 産業中毒	講義

1 0	2	『耳鼻咽喉疾患』 口腔・咽喉頭疾患 咽頭炎 喉頭炎 咽頭がん 喉頭がん	講義
1 1	2	『眼疾患』 機能の障害 部位別の疾患 網膜・硝子体、水晶体、緑内障の疾患と手術	講義
1 2	2	『眼疾患』 眼疾患歯・歯周組織の疾患 口腔領域の悪性腫瘍	講義
1 3	2	『アレルギー・膠原病・感染症』 アレルギー 自己免疫疾患	講義
1 4	2	『アレルギー・膠原病・感染症』 H I V感染症と日和見感染症	講義
1 5	2	単位認定終講試験	

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

社会福祉論

開講時期	II	単位数	1	時間数	15時間
教員名	非常勤講師	実務経験			
科目目標	チーム医療における社会福祉制度を学び、看護実践において活用していくための基礎的知識を習得する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	ほぼ毎回単元別演習問題を実施します	テキスト	看護を学ぶための法規と社会保障制度 （ふくろう出版）2019/3/25		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	社会保障福祉の概要	講義
2	2	社会保険制度の概説	講義
3	2	公的扶助制度の概説	講義
4	2	社会福祉制度の概説（概説→児童福祉→母子福祉）	講義
5	2	社会福祉制度の概説（障害福祉→高齢者福祉）	講義
6	2	社会福祉制度の概説（被災者福祉→貧困者福祉→補遺） 医療関連手帳・記録	講義
7	2	医療・福祉に関連する施設一覧 過去問・出題予想問題（終講試験対策）	講義
8	1	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

人間関係論演習

開講時期	Ⅲ, Ⅳ	単位数	Ⅱ	時間数	60時間
教員名	非常勤講師	実務経験			
科目目標	1. 関係的存在の人間として理解する 2. 人間関係構築のプロセスを理解する 3. 対話的關係の展開を学ぶ 4. 演習を通して、看護ケアや社会福祉援助における人間関係のとらえ方を理解する 5. 人間関係形成のためのプログラムを企画することができる 6. 企画した人間関係形成のためのプログラムを運営し、評価することができる 7. 計画から評価までのプロセスにおける自己と他者の人間関係のありようから、自己理解、他者理解を学ぶ				
評価方法	レポート 100点	評価基準	60 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）		テキスト	講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	人間関係論演習の目的・ねらい	講義・演習
2	2	他者理解	講義
3	2	コミュニケーション論（コミュニケーションの落とし穴等）	講義
4	2	グループワークトレーニング（コンセンサスの取り方等）	講義
5	2	実践演習（組織・目的、ねらいの設定）	講義
6	2	実践演習	講義
7	2	実践演習	講義
8	2	実践演習	講義
9	2	実践演習	講義
10	2	実践演習	講義
11	2	実践演習	講義
12	2	実践演習	講義
13	2	実践演習	講義
14	2	実践演習	講義
15	2	実践演習	講義
16	2	実践演習	講義
17	2	中間プレゼンテーション	講義
18	2	中間プレゼンテーション	講義
19	2	実践演習	講義
20	2	実践演習	講義

2 1	2	実践演習	講義
2 2	2	実践演習	講義
2 3	2	実践演習	講義
2 4	2	実践演習	講義
2 5	2	実践演習	講義
2 6	2	実践演習	講義
2 7	2	最終プレゼンテーション	講義
2 8	2	最終プレゼンテーション	講義
2 9	2	実践演習	講義
3 0	2	実践演習	講義

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能 I（生化学）

開講時期	I	単位数	1	時間数	15 時間
教員名	非常勤講師	実務経験			
科目目標	1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	講義前に教科書の該当部分に目を通し、講義後は教科書、プリント等を見直す	テキスト	生化学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	生化学を学ぶための基礎知識	講義
2	2	代謝の基礎と酵素・補酵素	講義
3	2	糖質の構造と機能	講義
4	2	糖質代謝	講義
5	2	脂質の構造と機能	講義
6	2	脂質代謝	講義
7	2	タンパク質の構造と機能、タンパク質代謝	講義
補講	2	ポルフィリン代謝と異物代謝	講義
補講	2	遺伝子と核酸、遺伝子の複製と組換え	講義
補講	2	転写、翻訳	講義
8	2	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能Ⅱ

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験	梅花女子大学 教授 有 医師（麻酔科）		
科目目標	1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリントは必ず復習で見直すこと	テキスト	解剖生理学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	呼吸器系1：呼吸器系の構成	講義
2	2	呼吸器系2：呼吸運動、肺気量	講義
3	2	呼吸器系3：ガス交換と運搬、呼吸器系の調節	講義
4	2	血液の働き1：血液	講義
5	2	血液の働き2：血液凝固	講義
6	2	血液の循環とその調節1：循環器系の構成、心臓	講義
7	2	血液の循環とその調節2：血管系	講義
8	2	血液の循環とその調節3：心臓の活動	講義
9	2	血液の循環とその調節4：循環器系の調節	講義
10	2	内蔵機能の調節1：外分泌と内分泌、ホルモン	講義
11	2	内蔵機能の調節2：全身の内分泌腺1	講義
12	2	内蔵機能の調節3：全身の内分泌腺2	講義
13	2	内蔵機能の調節4：ホルモンの働きと調節機構	講義
14	2	内蔵機能の調節4：自律神経	講義
15	2	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能Ⅲ

開講時期	I	単位数	1	時間数	15時間
教員名	非常勤講師	実務経験	有		
科目目標	1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	必ず復習を行うこと	テキスト	解剖生理学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	口・咽頭・食道の構造と機能	講義
2	2	胃の構造と機能	講義
3	2	小腸の構造と機能	講義
4	2	大腸の構造と機能	講義
5	2	膵臓・肝臓・胆嚢および腹膜の構造と機能 ①	講義
6	2	膵臓・肝臓・胆嚢および腹膜の構造と機能 ②	講義
7	2	第2章のまとめ	講義
8	1	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能Ⅳ

開講時期	I	単位数	1	時間数	15時間
教員名	非常勤講師	実務経験	有 医師（病理科）		
科目目標	1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	必ず復習を行うこと	テキスト	解剖生理学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	腎臓の構造と機能 ①	講義
2	2	腎臓の構造と機能 ②	講義
3	2	排尿路	講義
4	2	体液の調節	講義
5	2	男性生殖器と女性生殖器	講義
6	2	受精と胎児の発生	講義
7	2	成長と老化	講義
8	1	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（人体の構造と機能）

人体の構造と機能Ⅴ

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験		滋賀医科大学名誉教授 有 医師（病理科）	
科目目標	<p>1. 体を支える骨や筋の名称を知り、骨と筋肉の連結、動きを理解し、重心の位置の移動を考え看護実践に役立てることを理解する。</p> <p>2. 運動時の筋の役割。肩こり、腰痛、運動障害と関わる筋肉群を理解する。さらに、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして理解することができる</p>				
評価方法	筆記試験 50 問題 100点	評価基準	60 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）		テキスト	解剖生理学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	肢位について	講義
2	2	良肢位とは	講義
3	2	人体各部の骨の名称	講義
4	2	骨の連結	講義
5	2	体幹の筋肉と骨格	講義
6	2	上肢の筋肉と骨格	講義
7	2	下肢の筋肉と骨格	講義
8	2	頭頸部の筋肉と骨格	講義
9	2	筋肉の構造	講義
10	2	筋肉の収縮、骨格筋、心筋	講義
11	2	肩こり、腰痛、バネ指等と関係する筋肉、腱	講義
12	2	皮膚の構造と機能	講義
13	2	生体の免疫機構	講義
14	2	視床下部の働き、体温、水分調整	講義
15	2	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

地域環境論

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30 時間
教員名	非常勤講師	実務経験			
科目目標	人々の健康と生活が、自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用等の観点から理解できる				
評価方法	平常点（リアクション・ペーパー、ディスカッション）60%+期末筆記試験 40%	評価基準	60 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	なし	テキスト	講師作成配布資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	ガイダンス(地域環境論とはなにか、社会学的想像力とはなにか)	講義
2	2	恋愛	講義
3	2	結婚・離婚・近代家族	講義
4	2	映像観賞前半：家族の多様性	講義
5	2	映像観賞後半：宗教・移民・人種・テロ問題	講義
6	2	家族の多様性	講義
7	2	移民	講義
8	2	人種	講義
9	2	ディカッション：日常的に「他者」と共生することとは？	講義
10	2	環境問題と社会的ジレンマ	講義
11	2	水俣病から学ぶ	講義
12	2	疾病と社会的不平等	講義
13	2	リスク社会：環境とテクノロジー	講義
14	2	リスク社会：「他者」との共生	講義
15	2	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（人体の構造と機能）

微生物学

開講時期	I	単位数	1	時間数	15 時間
教員名	非常勤講師	実務経験			
科目目標	微生物の特徴と生態に及ぼす影響を学び、臨床における活用を理解できる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）		テキスト	微生物学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	微生物とは 細菌の性質	講義
2	2	真菌、原虫、ウイルスの性質（真菌感染症、原虫感染症）	講義
3	2	感染と感染に対する生体防御機構	講義
4	2	感染症の予防・診断・治療	講義
5	2	感染経路から見た感染症 ア) 経口感染	講義
6	2	感染経路から見た感染症 イ) 経気道感染	講義
7	2	感染経路から見た感染症 ウ) 接触感染	講義
補講	2	院内感染（日和見感染）	講義
8	2	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（人体の構造と機能）

病理学

開講時期	I	単位数	1	時間数	15時間
教員名	大阪労災院内講師	実務経験	有 医師（病理診断科）		
科目目標	病的状態を学び各疾患の病因・発生機序を形態学見地の基礎知識を理解できる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）		テキスト	病理学（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	1.病理学の基礎知識 1) 病理学で学ぶこと 2) 細胞・組織の障害と修復	講義
2	2	3) 循環障害 4) 炎症と免疫	講義
3	2	5) 感染症 6) 代謝障害	講義
4	2	7) 老化と死 8) 先天異常と遺伝子異常 9) 腫瘍	講義
5	2	2.領域別における病理学 1) 循環器系の疾患 2) 血液・造血器系の疾患 3) 呼吸器系の疾患	講義
6	2	4) 消化器系の疾患 5) 腎・泌尿器・生殖器系および乳腺の疾患 6) 内分泌系の疾患	講義
7	2	7) 脳・神経・筋肉系の疾患 8) 骨・関節系の疾患 9) 眼・耳・皮膚の疾患	講義
8	1	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

薬理学概論

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験	有 薬剤師		
科目目標	薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）		テキスト	薬理学（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	1. 薬理学を学ぶにあたって 1) 薬物による病気の治療 2) 薬理学とは何か	講義
2	2	2. 薬理学の基礎知識 1) 薬が作用する仕組み 2) 薬の体内挙動（薬物動態学） 3) 薬物相互作用 4) 薬効の個人差に影響する因子 5) 薬物使用の有益性と危険性 6) 薬と法律	講義
3	2	3. 抗感染症薬 4. 抗がん剤	講義
4	2	5. 免疫治療薬 6. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 7. 末梢での神経活動に作用する薬物	講義
5	2	8. 中枢神経系に作用する薬物 9. 循環器系に作用する薬物 10. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義
6	2	11. 物質代謝に作用する薬物 12. 皮膚科用薬・眼科用薬 13. 救急の際に使用される薬物	講義
7	2	14. 漢方薬 15. 消毒薬 16. 輸液製剤・輸血剤 17. 看護業務に必要な薬の知識	講義
8	2	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

薬理学各論

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30 時間
教員名	大阪労災病院臨床講師	実務経験	有 薬剤師		
科目目標	臨床における薬物治療の実際を学び、看護場面で活用するための知識を身につける				
評価方法	筆記試験 100 点	評価基準	60 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）		テキスト	臨床薬理学（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	第一章 薬物治療の基礎 インスリンの投与量の調整	講義
2	2	便秘治療薬 下痢治療薬 鎮咳・去痰薬	講義
3	2	睡眠薬 脂質異常症	講義
4	2	高血圧症 抗血小板・抗凝固療法	講義
5	2	循環動態にかかわる持続点滴中の薬剤の投与と調整 術後ならびに呼吸管理にかかわる薬物の投与と調整	講義
6	2	熱鎮痛薬 制吐薬	講義
7	2	栄養および水分管理にかかわる薬剤の投与と調整 感染徴候がある者に対する薬物の臨時投与	講義
8	2	気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	講義
9	2	鎮静薬 骨粗しょう症 関節リウマチ	講義
10	2	慢性腎臓病（CKD） 透析患者における薬剤管理	講義
11	2	副腎皮質ステロイド薬による治療 パーキンソン病	講義
12	2	急性冠症候群 心不全 不整脈	講義
13	2	認知症（アルツハイマー病） うつ病・うつ状態 てんかん 精神および神経症状にかかわる薬剤の投与と調整	講義
14	2	胃・十二指腸潰瘍 慢性肝炎 胃食道逆流症	講義
15	1	単位認定終講試験	試験

専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

臨床検査学

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	15時間
教員名	大阪労災病院臨床講師	実務経験	有 臨床検査技師		
科目目標	1. 臨床検査とその役割について理解する 2. 臨床検査各論を学び、看護の場面で活用するための知識を身につける				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと	テキスト	臨床検査（医学書院）		

回数	時間	学習内容	授業方法
1	2	臨床検査とその役割	講義
2	6	臨床検査の種類・目的	講義
3		臨床検査の活用の実際（おもな臨床検査）	
4		一般検査 血液学的検査 化学検査、血液ガス検査 免疫・血清学検査 内分泌学的検査 微生物学検査	
5		2	
6	4	臨床検査の種類・目的	講義 演習
7		臨床検査の活用の実際（おもな臨床検査） 生体検査 生理機能検査：循環機能検査 呼吸機能検査 神経機能検査 画像検査 超音波検査 磁気共鳴画像（MRI）検査 サーモグラフィー 内視鏡検査	
8	1	単位認定終講試験	